

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立神戸甲北高等学校

活動の実際（単元名）

書道Ⅲ「好きな文字を書いて、協力してカレンダーを作ろう」

指導目標

コミュニケーションをとりながら、作品を仕上げる。

事前学習

甲北生には、交流及び共同学習がある前時間に、コミュニケーションをとることが苦手な人があることを話した。言葉を使って話すだけでなく、伝わるように工夫する必要があり、具体的な例をいくつか示した。すべての人に同じ方法でうまくいくわけではないこともあわせて伝えた。神戸特別支援学校には、授業の流れとペア生徒の写真をパワーポイントにしてお渡しした。

学習活動（具体的な取組）

- 挨拶
- 自己紹介
- 授業の流れの確認
- 作業①リレー書道
- 作業②好きな文字を書く
- 作業③カレンダーに貼る
- 振り返り
- 挨拶

支援と留意点

- ・挨拶は、「号令をかけてくれる人はいますか」と問いかけて、手をあげた生徒に頼む。
- ・特別支援でよく使用されているドロップの絵カードの『授業の流れ』を黒板に貼っておく。
- ・活動が終わるごとにカードを外していくことで見通しがつきやすくする。
- ・作業に使う用具や材料は、かごに入れて置き、作業が終われば片付けるようにする。
- ・リレー書道では何番目に書きたいか、紙の色を何色も用意し、どれを使いたいかを甲北生が特別支援生に聞く場面を設定しておく。
- ・コミュニケーションが取れていない時は特別支援学校の先生にも手伝っていただく。

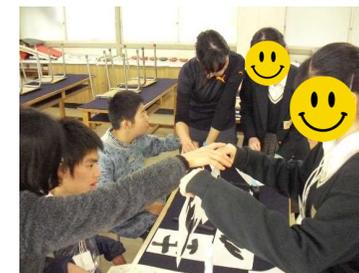
評価

交流及び共同学習の時間内に自分からコミュニケーションをとることができたか、相手にわかるように伝えることができたか、授業の流れを理解し自分から動くことができたかという点が評価のポイントである。生徒の感想からは、もう少し積極的にすればよかったという記述が多かった。相手が伝えたことをわかってくれた時のうれしさを記述していた生徒もいた。

活動の様子



黒板にはった『授業の流れ』カード



作品を選ぶ特別支援生と作品を持つ甲北生

事後学習

自由記述で交流及び共同学習の感想や感じたことを無記名で記入させた。記入後、コミュニケーションの取り方で良かった点を伝えた。生徒の記入した自由記述を次の授業で全員分読み、感じたこと、学んだことの共有をはかった。

成果と課題

自由記述の中で、「4枚の作品から1枚を選ぶのは難しいが、2枚ずつに分けて1枚ずつ選び最終的に1枚選ぶように声をかければよかった」という記述があった。特別支援学校の先生によるところもあると思うが、端的に短い言葉で伝える、目を合わせてから話すなどコミュニケーションの取り方を学んだ生徒が多かった。昨年度は特別支援学校の違うグループ(話し言葉でコミュニケーションがとれる)と交流したが今回は工夫をしながらもそれが楽しいと感想を書いてくれる生徒が多かった。課題は、もう少し大人が手伝わず生徒たちにまかせるためにも複数回の交流機会を持つことであるが、なかなか機会が持てないのが現状である。